北海道大学附属図書館報

The Hokkaido University Library Bulletin　Vol. 6, No. 1　Jan. 1972

「大学図書館」の核

附属図書館整理課長　沙藤隆茂

大学における図書資料利用の効率は，その大学が持つ Library Service System の精度に正確に比例する。一般には，大学の Library Service System は，附属図書館，分館および各部局または学科，研究室等の図書館・室群から成る。これらを有機的な統一体として，いかにまとめ上げ，相互に補完，調和する機能体として編成するかが，今日の「大学図書館」改革論議の最も主要な課題である。しかし，多くの議論がすでに年久しく盛んに行なわれているにもかかわらず，この課題のたんなる確認であったり，強調であったりするに止まることが多いように感じられると言えばいい過ぎだろうか。

たしかに，学内にバラバラに存在し機能している図書館・室群をひとつの「大学図書館」という語によって包括的にとらえようという発想は画期的な意義をもつものであって，このような新しい理念に裏打ちされた語としての「大学図書館」という名辞がいまだに一般化されず，往々，素朴にも一個の「大学附属図書館」と混同され，「大学図書館改革」が「大学附属図書館改革」に短絡されがちな現状では，まず，新しい「大学図書館」観の普及も必要なことにはちがいないであろう。しかし，肝腎なことは，理念に基づく新しい現実の創造のはずである。拙い比喩だが，田畑の灌漑を考える場合，もし，いくつもの池があり，これらを有効に結びつける水路が必要だとなれば，実際に水路を掘ることをせねばなるまい。学内に散在する図書館・室という大小の池（蛇足ながら情報という無形の流動体を貯蔵して利用に供する図書館・室は，まさに貯水タンクのイメージで筆者には思い浮かぶのだが）に勤める者としては，いまは，理念の現実的な展開をこそ求めたい気がするのである。そして，包括的な「大学図書館」像という理念の具体化として，誤解をおそれずに私見を一言すれば，まず，各部局に所属している所謂図書系職員を部局から切り離し，北大の「大学図書館員」（附属図書館員ではない）という位置づけの下に再編成することが必要であると考える。「大学図書館」という有機体を形成する核を実際にしごとをする職員に求めようというのである。このことは，学内の各図書館・室相互間の機能の連絡・調整をはかる上できわめて自然な方法であるばかりでなく，全学的な図書業務の標準化——ひいては業務の質的向上のためにも有効な方法であると考える。現状はひとり北大のみならず，多くの大学において，学内の一貫した Library Service System の維持，充実は，細分化された各部局図書館・室職員の多分に自発的な協調に負うにすぎず，おのずから限界と凸凹があることは避け難い。筆者の短見について御教示を得れば幸いである。

◆ 学内図書館だより

医学図書館間におけるテレックスによる相互貸借の現状について

テレックス (TELEX) とは，電話と同じようにダイヤルを廻して相手を呼出し，接続後，タイプキーをたたいて直接交信するか，あらかじめ紙テープにさん穴し，これを自動送信装置で送信する機械です。テレタイプ同様，発信側と着信側の双方に記録が残るので，電話と異なり通信内容が正確に記録できる上，発信側が送信すれば相手側は自動的に受信されるので，夜間，休日等相手側が不在でも送信することができます。

日本医学図書館協会（全国の医科系大学図書館，研究所，病院図書室等，56 館が加盟）では，文献入手と情報交換のスピードアップを目的に数年前から加盟各館に設置を呼びかけていました。現在，自館に所蔵していない文献を他大学から取り寄せる場合，普通 2～4 週間位かかります。テレックスで申し込むと即時相手館に通じるので，郵送申し込みによる時間のロスはありません。しかし，折角申し込みを受付けても，すぐに文献を送ってくれなければ意味がありません。そのため医学図書館協会の申し合せで，テレックスで受けた文献複写等の申し込みは，当日か，おそくても翌日中には処理して発送することになっているので，普通便で送られてきても 1 週間前後，「速達で」指定すれば，3～5 日前後で全国の何処の大学の文献でも入手可能となるわけです。

現在，医学図書館関係で設置されているのは，昨年 10 月に設置した当室のほかは，慶大，東京女医大，東京医科大，大阪大，神戸大，広島大，徳島大，奈良医大の 8 館のみなので，当室の場合，現在こちらから申し込むのが月平均 15 件位，受付けるのは月平均 30 件前後というところです。

テレックス使用料金は，月 1 万円の基本料金のほか，電話と同様，使用時間，地域によって使用料が異なります。テレックスは 1 分間に最高 375 字送信できるので，東京以遠に送信する場合，文献複写 1 件申し込みに必要な事項全部で約 200 字前後，料金に直すと 70～80 円（基本料を除く）で，速達より少し安くなります。当室の場合，基本料金は学部で負担し，送信料のみ 1 件 80 円で受付けています。

まだまだ設置館が少ないうえに，国立の場合，料金受領後でなければコピーを発送できないとゆう会計法上の制約もあって，今の所充分にその機能を発揮しているとはいえません。しかし，加盟館の中でも年に 1～2 館ずつ設置されてきていますし，文献複写の申し込みばかりでなく，文献所蔵の有無，書誌的事項の調査依頼，照会等，至急知りたい時にはすぐに記録に残る返事がもらえるので，図書館関係では大いに利用できる便利な機械といえます。

（医学部図書室）

附属図書館における業務改善の検討開始

これまで，附属図書館では，部内会議（掛長以上）で諸種の業務改善等について協議してきたが，これを一層促進するために整理課長補佐を幹事とする掛長会議を定例化し（月 2 回），より具体的かつ生産的に業務のあり方を再検討することとなった。本年 1 月 19 日に第 1 回を開催して以来引続き業務上の改善事項について精力的な協議を行なっている。なお，この掛長会議における検討に平行して，附属図書館スタッフ・マニュアルの作成が計画されており，その第 1 段階として現在各掛単位で持っている業務要綱等を近くとりまとめることになっている。

（附属図書館）

◆ 会　　議

第58回 図書館委員会

<と　き　昭和46年12月11日(土)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 第2種閲覧個室利用者の選考について

収容人員42名に対し40名の申し込みがあり内容も論文作成自由研究等のため全員許可した。

2. 北海道大学附属図書館文献複写規程および文献複写料金規程ならび文献複写内規の一部改正について

本年度予算で本館にマイクロフィッシュ撮影装置が導入されたことに伴い所要の改正を行なったことと文献複写申し込み書の統一により所要の改正を行なった。

3. 報告事項

(1) アンケート調査の結果について

(2) 特別購入図書の取扱い

第6回 改革委員会第1-2専門委員会

<と　き　昭和46年11月5日(金)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. アンケート調査について

アンケート回収率については，かなり高率の回収率が得られた。(前号に掲載)

次の作業として分析担当を決め本格的改善に取組むこととした。

分析担当は次のとおり。

教　官	今村教授	(法)
教養学生	大畑教授	(教養)
大学院生	中村教授	(経)
学部学生	柏村教授	(工)

なお，全体の連絡調整は，今村教授がとり事務改善委員会も各委員の下で協力することとなった。

◆ 資料紹介

SCIENCE CITATION INDEX (SCI)

SCIはアメリカの情報科学研究所 (Insititute for Scientific Information) が，コンピューターによる情報処理システムを駆使して，1961年版 (citation index) を1963年に初めて発行し，その後1962年及び1963年版をとばして，1964年版を発行し，以後毎年継続的に発行している。

1964年版からは source index を加えて2種類の index となり，1966年版から更に permuterm subject index を加えて3種類の index として発行されている。発行間隔は，毎年季刊で発行され，第4 quarter がその年の年間累積版となっている。1962年及び1963年版は未発行であり，又，1964年から1968年版の5年間の累積版は1971年に発行される予定である。

北大所蔵分としては，本館参考図書閲覧室に1968年版より継続購入し，現在1971年の第3 quarter までの分と，工学部図書室に1961年版を所蔵している。

この Index は，前述の3種類の index を有し，それぞれ利用の目的及び方法が異なるので，以下簡単に1970年版について解説する。

この版では，同年中に出版された自然科学，応用科学の全分野及び，情報科学，経営管理等の社会科学分野の約2,100種 (1961年版では，生物・医学に重点をおいた613種) 以上の世

界の主要専門誌を原雑誌 (source journal) として選択，その原雑誌に含まれた36万件以上の論文と，その論文に引用された400万件以上の文献を網羅している index である。

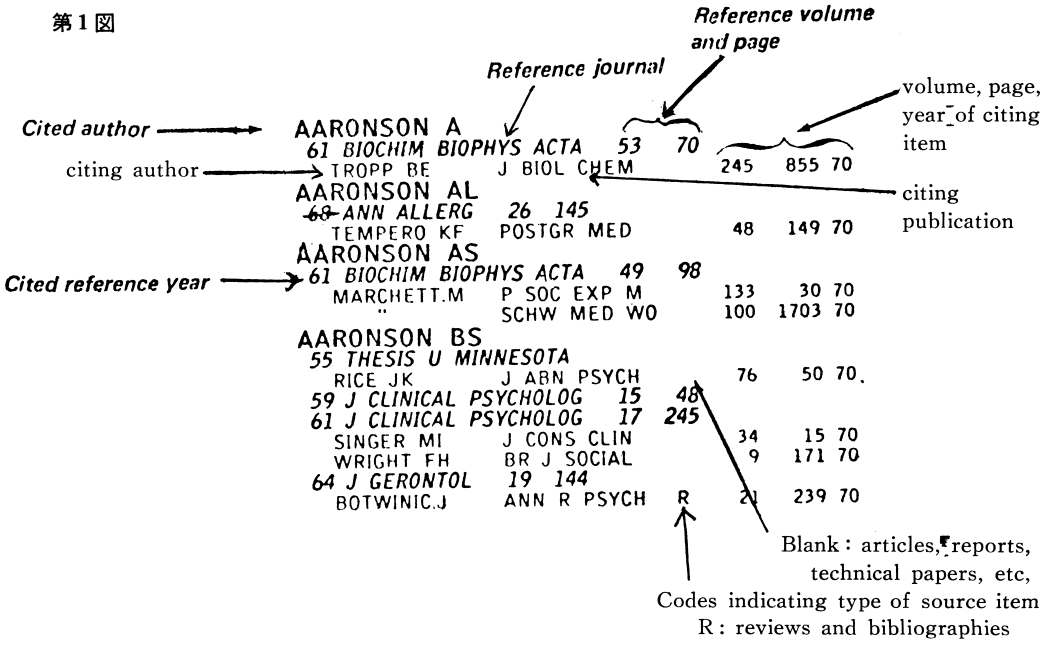
Citation index

この index が，SCI の中で最も特徴を有する index で，従来の index 類が，その収録期間中に或る著者がどういう文献を発行したか，又は或る主題についてどういう文献が発行されているかを調べたり確認したりする為に作成され，著者名及び主題名に従って検索するようになっているのに対し，この index は，或る人が特定の原論文を発行した場合，その後その論文が誰に依ってどの科学的分野の出版物に引用されたかをいもづる式に辿る事が出来るもので，従って特定の理論とか，新事実として問題になったりした事項が，その後どのように発展したかを調査したり，或いは総説を書いたりする時に有用である。

従来の index は，主題についての用語又は，件名標目によって調査を行なう為，専門主題分野の用語の知識を必要とするのに対して，最低関心のある文献 (普通は論題名も知られている) の著者とその文献の発行年のみを知っていれば，この index を使用する事が出来る。その為，この index は引用された原著者 (cited author) の一種の著者名索引でもある。

この citation index は，authored citation index, anonymous citation index 及び patent citation index から構成されているが，その大部分を占めている authored citation index について具体的に説明する。

第1図



SHINDY WW
67 NATURE 214 1024
BRIAN C ANN A PLANT 20 319 70
ESCHRICH W ANN R PLANT R 21 193 70
QUINIAN JD PLANT PHYSL 46 527 70
SHINDY WW NATURE 227 301 70

これは Wasty W. Shindy の論文，Nature Vol. 214 (1967), p. 1024- が同じく Wasty W. Shindy により Nature Vol. 227 (1970), p. 301- に引用されたことを示し，又，この期間中に4人の著者により4種類の誌名に引用された事を示している。

最近1カ年の間（特別の場合はそれが1年乃至2年位遅れた発行年のものも収録されている）に世界の主要専門誌に引用された文献を，その原著者名 (cited author) のアルファベット順に掲載している。(引用されている文献の型として，雑誌論文，単行本，各種レポート類，会議報告，未刊の論文，新聞，学位論文，特許等がある。) その許にインデンションを下げて，原著者の論文の掲載年 (cited reference year) とその掲載誌 (略誌名) (reference journal)，巻数及び頁数 (reference volume & page) を示し，同一原著者のもとに多くの引用された論文がある場合は，その掲載年の順に配列され，又，各掲載年，掲載誌の下に，更にインデンションを下げてその原著者の文献を引用した著者 (citing author) とその文献を引用文献として載せた雑誌名 (略誌名) (citing journal)，巻数，掲載頁，発行年 (volume, page, year of citing item) を載せている。その場合，引用している著者が2人以上ある時は，その著者のアルファベット順に配列されている（第1図参照)。

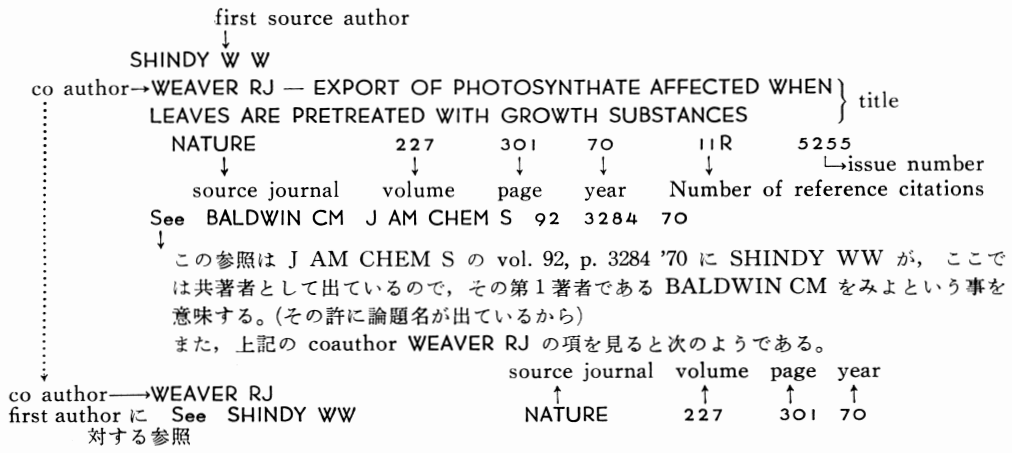
この他に，明確な個人著者がいないとか，匿名の論文を引用している場合には，引用された著者のアルファベット順の代りに引用された出版物名のアルファベット順に配列編成された anonymous citation index と，特許を引用した場合に，引用された著者のアルファベット順の代りに特許番号 (patent number) の番号順に配列されている patent citation index がある。

Source index

この index は，citation index 中に掲載されている citing author，即ち原論文を引用している第1著者（この source index 中では first source author となる）及びその全ての共著者（第1著者に参照を付している）のアルファベット順に配列され，第1著者の許には，共著者，論題名，略誌名 (source journal)，巻号数，頁数，発表年，参照文献数を，共著者の許には，略誌名，巻数，頁数，発表年を示している index である。この index の先頭に，著者不明の場合に略誌名（アルファベット順）から引ける部分が付加されている。

この index の使用法としては，citation index では，引用した第一著者と略誌名，発表年，巻数及び頁数のみしか示していず，共著者とか論題名は判らないので，その場合に共著者，論題名を知る為に使用する事が可能であるが，その他に，その期間中に発行された source journal 中の文献を網羅しているので，この source index を，独立した著者索引として，従来発行されている索引誌の著者索引と同様に利用する事も出来る。

この source index も authored source index と corporate source index から構成されている。その主要部分を占めている authored source index について説明すると，前述の Shindy の論文を引用した W. W. Shindy の論文名又は共著者をこの index で調べると次の通りである。



また，他方の corporate index は，団体名に属する全ての論文は団体名（アルファベット順）の許に掲載しているので，団体名が判明している場合はこれにより検索する事が出来る。

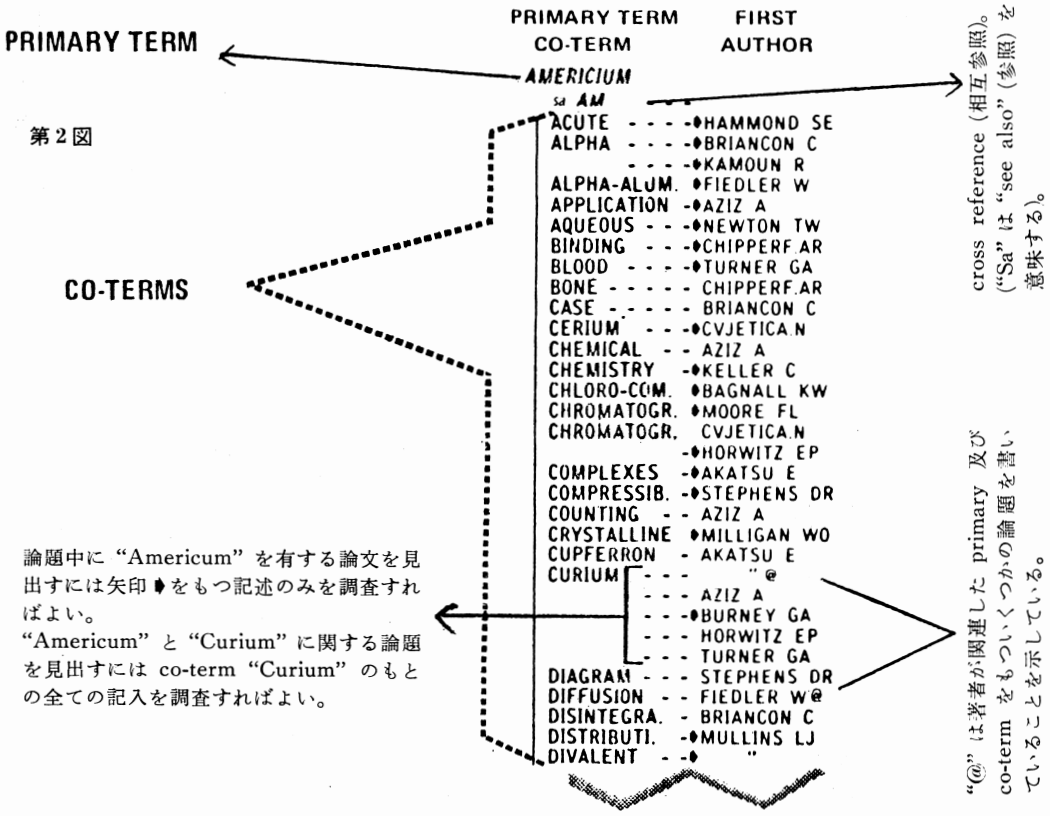
この場合，第一著者と略誌名，発行年，巻数，頁数のみを示しているので，論題名とか個人著者等のより詳細な書誌的事項を知る為には，第一著者から authored source index を検索する事で解決出来る。

Permuterm subject index

従来の index の重要構成部分を占める件名索引，又は KWIC index (Keyword-In-Context index) に相当するものである。その特色は，KWIC index と件名索引の双方の利点を合せ有している index であると考えられ，ここで使用される言葉は，KWIC の場合と同様に，論題中で使用されている自然語を keyword (primary term 及び co-term) として使い，しかし，KWIC が keyword を文脈中に順次循環させているのに対し，この index では primary term (利用者が検索に際して一番重点を置く keyword：件名索引の主標目に相当すると考えられる) 及び co-term (2 番目以下に重点をおく keyword：主標目を細分する副標目とも似たような使用法をとっている) から構成され，その点，KWIC index よりは，件名索引に類似している。

利用者は，関心がある著者の名が判らない場合は，citation index 及び source index は使用出来ない。そういう場合に，関心のある主題を表わす言葉から，著者，論題，掲載誌等の書誌的事項を知る為の index として使用する。

この index は，primary term のアルファベット順で，その許にインデンションを下げて co-term が同じくアルファベット順に配列され，co-term に対応して source index 中の第一著



第2図

者が示され，これにより source index 中から論題，誌名，巻号数，発行年等を知る事が出来る。

primary term に関する文献を網羅的に調べたい場合は，対応する第一著者の前に付されている矢印➡のある文献のみを探索すれば目的を達する事が出来，primary term 及び co-term の二つの用語に関する文献を調査する場合は，その二つの用語を含む場所の文献を調べればよい。例えば，carbohydorate metabolism についての文献探索は，primary term として carbohydorate と，その許の co-term として metabolism の許を調べればよい事になる。これは二つの用語を逆にして調べても同様に可能である。この方法は更に三つでも四つでも co-term をふやし，それらの co-term に共通する文献を探せば，より限定された検索が可能になる。(第2図参照)

以上の事から，この index は，論題中の stop word (冠詞とか前置詞等の不要な語) を除く重要語を種々に並べ替えて使用しているので，KWIC index や件名索引に較べ，目的の主題についての文献を比較的容易に，又，正確に発見する可能性が多いように考えられる。

最後に，この SCI は，科学技術の全分野と社会科学の一部を対象としている indexで，従来発行されて来た index 類が，比較的限られた分野のみしか収録対象としていないのに対し，各領域にわたる幅広い文献探索 (意外な分野に文献が引用されている) を可能にしており，source journal の数及びその選択の範囲で，網羅的に文献を探索するのには，従来の index に比較して疑問もあるが，然し引用文献探索と，従来の文献探索を兼ね備えた，各々特色ある3種の index を有している画期的なものであるので，従来の index と併用されて，研究者の活発な利用をお願いします。 (閲覧課長 谷本幹男)

HAGUE. Permanent Court of International Justice. Publications. Series. A-F.

(ハーグ: 常設国際司法裁判所資料集)

現在その実質的活動を行っている国際司法裁判所の前身として，1921年から1945年まで活動した常設国際司法裁判所の資料集である。

この裁判所は国家と国家の紛争のみを裁き，国際社会で最も重要な役割を担っている裁判所といえる。実際にも多くの紛争を解決したその貢献度は大きく，また裁判の審理を通して国際法を発展させた貢績はそれ以上に大きいといわれ，その判決は国際法のあらゆる研究にひんぱんに参照，引用されるものである。

資料は

Series A: 判決集 B: 勧告的意見集 C: 当事国の弁論集 D: 裁判所規程・規則およびその改正議事録 E: 裁判所の制度・構成・活動に関する年報 F: 索引

の6つのシリーズに分かれて毎年度発行されたものである。

ПЕЧАТЬ и РЕВОЛЮЦИЯ Журнал литературы, искусства, критики и библиографиии. 1921–1930 Москва.

〔出版と革命〕誌

ソビエト政権誕生後10年間のソ連の文学，美術，政治，歴史，労働問題に関する定期刊行物で，国内に展開されつつあった文化革命の諸相と国民の知的志向を反映し，その視野の広さという点で「サタデー・レビュー」誌に匹敵すると評価されている。

誌面は，大きく「論説と要覧」，「書評」の二部門に分かれ，文学論，文学史，文芸批評，

美術評論が重要な部分となっているが，その他，社会，政治評論，書籍・出版，自然科学の諸分野，哲学，歴史学などの多方面にわたって書評が掲載されている。それらの中で「文献年報」は国外の文献についても言及し，新生ソビエトの文化，社会，政治をくわしく知るようになっている重要な資料である。

DUVERGIER: Collection Complète des Lois, Dècrets, etc. Origine 1789 à 1877 (Tome 1 à 77)

(ジュベルジェ: 法令全書)

フランス革命から第3共和制初期にいたる間の法令（公法，私法および行政命令の全領域にわたる）を収集したものである。

フランス近代法法制および政治の歴史を研究するためには，最も信頼性のおける不可欠の基礎資料であって厖大な法令を網羅しており，かつ厳密な正確さにおいて定評がある。

営業報告書集成 (明治32年～昭和20年)

営業報告書集成は，明治32年商法実施以降・昭和20年の終戦まで，東京株式取引所の上場会社を中心に非上場・同族の諸会社26業種1,221社の決算報告書，営業報告書，株主名簿等々の資料をマイクロ・フイルム（510リール）に収めたものである。

この資料の特徴は，とくに古い歴史をもつ会社，例えば王子製紙株式会社（明治5年創立）のような旧商法制定（明治23年）以前の会社についても創業期にさかのぼって収録されており，また日本経済史のうえで重要な意義をもった南満州鉄道，昭和銀行，日本発道電といった会社についても創業期から解散にいたるまで，今日存続していない多くの消滅会社の記録をも収録している。

経済学部は，このたび上記戦前の営業報告書のうち，石油・石炭鉱業，紡織，パルプ・紙，電気器機，輸送用器機，運輸，電力，金融（銀行・信託），商業の9業種553社（254リール）を購入した。

すでに所蔵している戦後有価証券報告書とあわせ，戦前・戦後の会社史，経営史，産業史の研究はもちろん，明治以降の経済発展，資本蓄積の分析研究等の日本経済史の研究，さらには，会計史的立場から企業会計の発展過程等々社会科学の諸分野の研究にひろく役立ちうる基礎資料の集成である。

А. С. Пушкин, Полное собрание сочинений. Том. 1–16 Издательства Академии наук СССР, Москва, 1937–1959.

(プーシュキン全集)

プーシュキンはロシア文学史の上で最も大きな存在であり，近代文学の出発点となった国民的な詩人・作家である。

ソビエト・科学アカデミーのこのプーシュキン全集は1937年から刊行されはじめ，1949年に至って全16巻（20冊）が完成し，さらに1956年に補巻が上梓されて終了した。帝政時代からソビエトに至る長いプーシュキン研究の歴史とその成果を踏まえた厳密な本文校訂を経ており，今日までのプーシュキンの最も完全な，唯一の全集である。特にテキストのあらゆる異同が明らかにされている点からもプーシュキン研究のために不可欠なものである。

従来種々のいゆる流布本全集は研究室にありながら，この全集がなかったのは戦後未だソ

ビエト書の入手の方法，経路のなかった時代に刊行されたこと，その後もソビエトからの古書（バック・ナンバー）の入手が困難であったことなどによるもので，備えたい希望は絶えずあったのである。幸いにして今回入手できることとなったことは今後の研究に益するところ大である。

ИЗВЕСТИЯ АКАДЕМИИ ПЕДАГОГИЧЕСКИХ НАУК РСФСР

ロシヤ共和国教育科学アカデミー通報

1945年から発行されている，ロシヤ共和国教育科学アカデミー（現在は，ソ連邦教育科学アカデミー）の研究誌で，教育学，心理学，教育史，就学前教育，芸術教育，体育，各科教授法などにかんする学術論文が掲載されている。ほとんどの場合，教育科学アカデミーの各研究所及び各部門毎の共同研究の成果の発表が主な内容であり，したがって各巻とも，研究課題ごとの特集となっており，ほぼ，隔月刊となっている。

教育科学アカデミーの学術誌では，このほかに，「ソビエト教育科学（СОВЕТСКАЯ ПЕДАГОГИКА）」があり，これは，1937年から発行されている，月刊理論誌で，「通報」のように特集形成ではなく，教育学の全分野にわたって，毎号，主として個人論文を掲載している。

このたび，「通報」の第66～140巻（1956年～1965年）が，本学教育学部に配架された。広く利用されるよう希望いたします。

◆ 訂　正

Vol. 5, No. 5の退任に際して（今村法学部教授）の本文中「それから期6年……」を「それが3期6年……」に「新しい予限の……」を「新しい事情の……」に，「近代化問題と取り組んでまた……」を「近代化問題と取り組んで来た……」に訂正します。

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」　Vol. 6　No. 1　（通巻27号）
1972年2月29日 発行　　発行人　斉　木　一　郎
発 行 所　　北海道大学附属図書館　　札幌市北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2966)
印 刷 所　　文 栄 堂 印 刷 所　　札幌市北3条東7丁目　電話代表 231-5560